

ふるさとの自然を、未来につなぐ

九州ふるさとの森づくり



雲仙・普賢の森植林ボランティア(長崎県島原市)

どんな木を植えているの？

九州の自然植生である、シイ・タブ・カシを中心としたその土地本来の樹種による森づくりを行っています。

植樹する苗木には、九州電力の総合研究所でどんぐりの産地別に栽培した苗木も使っています。



総合研究所生物資源研究センター(前原分場)でのどんぐり苗木栽培の様子



苗木(アラカシ)



●人に心地よさを与える

森の中を歩くと、木が発すると言われているマイナスイオンのシャワーを浴びることができ、リラックスしたり、清々しい気分になれます。

●水をためる(災害を防ぐ)

森の土は落ち葉が分解してでき、ふかふかで栄養たっぷり。おまけに木の根やミミズやモグラが掘ったトンネルが縦横無尽に走っていて、隙間だらけなので、スポンジのような状態です。そのため森の土は、木のない土よりもたくさん水を吸い込むことができます。だから、森は「緑のダム」といわれています。森がなくなると、水が吸われないので、雨が降るとすぐに水が流れて川が氾濫してしまったり、場合によっては洪水を起こします。水をためておく森は、水害から私たちの暮らしを守っているのです。

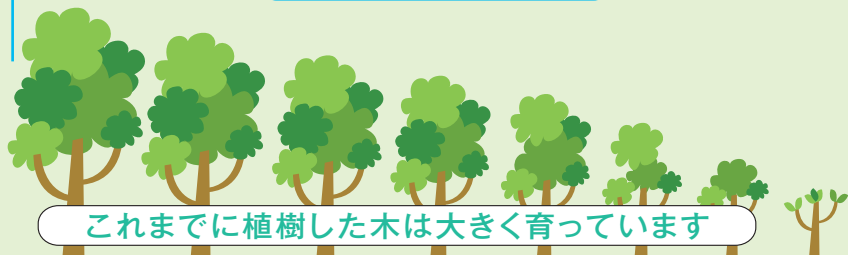
●利水(川・ダム)

雨が降り、森の下から湧き出た水はやがて川に注ぎます。その川の水をダムでせき止めて、発電用に使ったり、農業用、飲用、工業用に使っています。

いっぱい植えたよ!



累計約90万本



目標
100
万本

創立50周年を記念して、2001年度から10年間で100万本（1年で10万本）の植樹を地域の皆さまと一緒に進めて行っている「九州ふるさとの森づくり」を九州の各地で展開しています。2008年度は、48か所で森づくりを実施し、約11万本を植樹しました。

「九州ふるさとの森づくり」はいつ、どんな所でやっているの？

「九州ふるさとの森づくり」ホームページでは、今後の植樹予定や過去の植樹実績のほか、「なぜ森をつくるの?」「森づくりの一日体験ツアー」など、森づくりに関する色々な情報を掲載しています。

「九州ふるさとの森づくり」ホームページへは…

九州電力ホームページ
<http://www.kyuden.co.jp/>

環境への取組み

具体的な取組み

「九州ふるさとの森づくり」



「九州ふるさとの森づくり」ホームページ



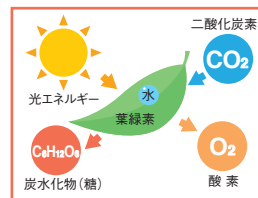
大きな木に育ってね



森にはどんな役割があるの？

●CO₂(二酸化炭素)を吸収し、地球を暖めすぎない

木は、光合成をしています。太陽の光のエネルギーを使って、水とCO₂から、木を成長させる栄養となる糖と酸素を作っています。つまり、木は光合成を行う時、人間とは反対に、CO₂を吸って酸素を吐き出しているのです。森は、地球にきれいな空気をもたらすと同時に、地球が暖まり過ぎるのを防いでいます。



●動物・植物・昆虫など生き物を育てる

森にはたくさんの生き物がすんでいます。地面に落ちた木の葉は栄養となり、他の植物を育て、またミズズや微生物などもその栄養で生きています。小さな虫たちや草花の種、木の実などを食べる鳥たちもいます。そしてその鳥の糞に入っていた種から樹木の芽が育っていきます。こうやって森の生き物たちはお互いを支えあい、大きな輪となって、命をつなげています。さらには、森から川、そして海へと流れる水があるからこそ、海の生き物もまた生きていられるのです。

